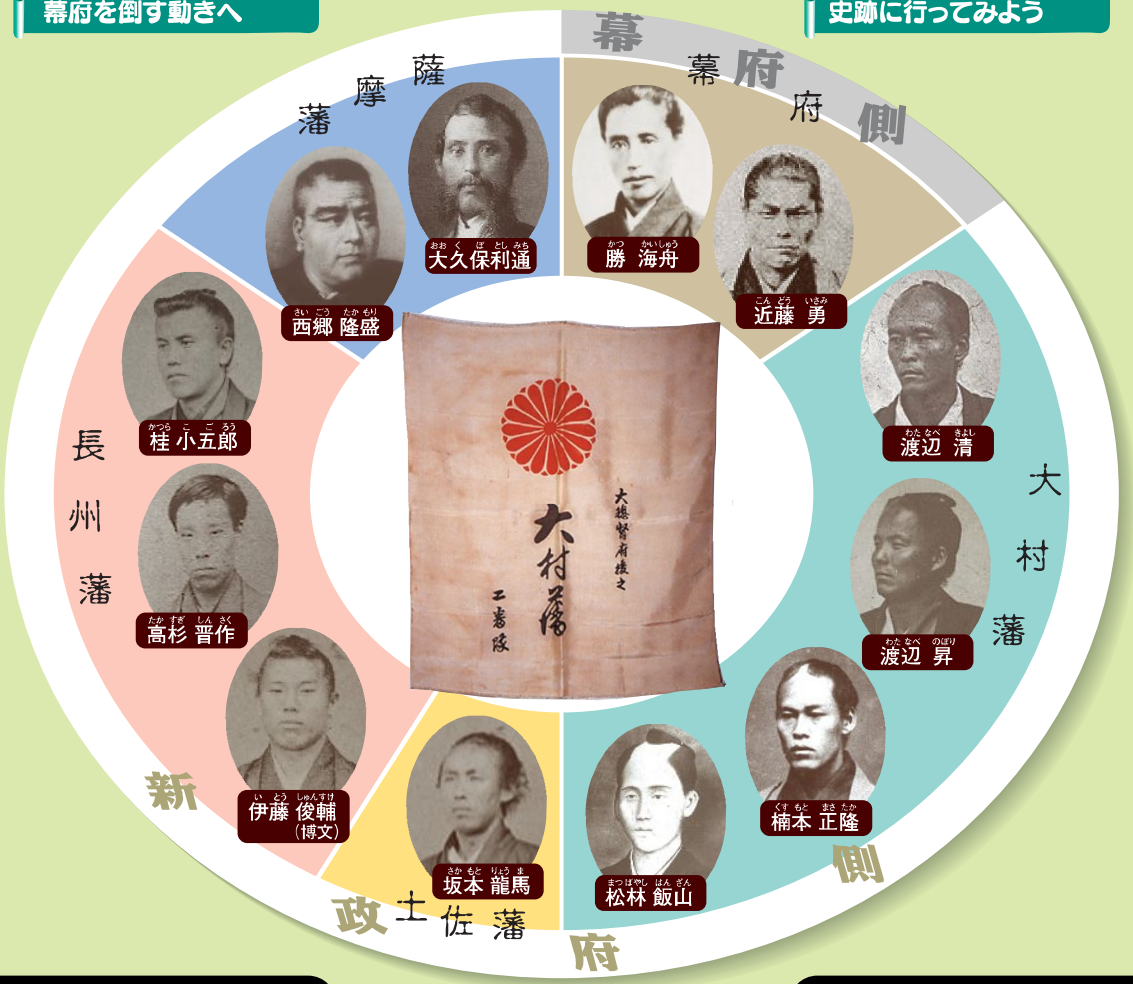
大村市立史料館企画展

幕末大村偉人ものがたり

～龍馬たちと日本を動かした人物たち～

幕末、日本を変えようと多くの藩の人が活躍しました。そこには薩摩の西郷隆盛や長州の桂小五郎といった人たちといっしょに、大村藩の人たちも数多くいました。彼らの行動から新しい日本がうまれていったのです。

- 鎖国から開国へ
- 幕府を倒す動きへ
- 幕府との戦い　戊辰戦争
- 大村藩士データファイル
- 史跡に行ってみよう



鎖国から開国へ

嘉永6年（1853）、アメリカ海軍ペリーに率いられた4隻の黒船が、江戸湾に現れ大騒ぎとなりました。日本の開国を求めるペリーに、幕府は1年後の回答を約束しました。そして、幕府は、開国を決め、長崎・横浜・神戸・函館・新潟が貿易港として開かれました。

そして幕末へ

外国に負けて開国した幕府に批判が集まり、外国人を追い返し、天皇を敬おうとする〈尊王攘夷運動〉が活発になり、幕府に反対する勢力は、朝廷を中心とする体制を作っていきます。これに対し幕府には、朝廷と仲良くする〈公武合体〉の動きもありましたが、幕府を倒す運動〈倒幕運動〉が激しくなり、幕末の動乱が始まります。

幕府を倒す動きへ

開　国
幕府は鎖国をやめ、開国することにしました。しかし、開国するかどうか迷ったことや、外国の要求に負けて開国したことで、幕府は信頼を失い、力を落としていきます。

↓

攘夷運動
開国に反対する人は、外国人を武力で追い返そうと考えました。

↓

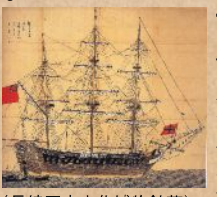
攘夷の失敗
長州藩など攘夷を行うものも出てきますが、武力では外国に立ち向かえず、攘夷の難しさを知ります。

↓

新しい国づくりへ
外国に負けない国づくりが必要と考えます。

↓

倒幕へ
幕府の古い体制では、外国に対抗できないと考え、幕府を倒して朝廷を中心とする新しい国を目指すようになりました。


（長崎歴史文化博物館蔵）

フェートン号事件

ペリーより45年も前に長崎の港にイギリス軍艦フェートン号が入り、オランダ人を人質にとる事件が起きました。長崎奉行はこれを追い払えなかったため切腹します。この事件に大村藩はショックを受け、外国に負けない新しい日本を作る必要性を感じました。

幕末キーワード

攘夷運動

攘夷とは外国人を打ち払えという考えです。武力で開国を要求した欧米を武力で打ち払えという攘夷論は、外国人を殺傷したり、外国船を砲撃する事件を引きおこしました。

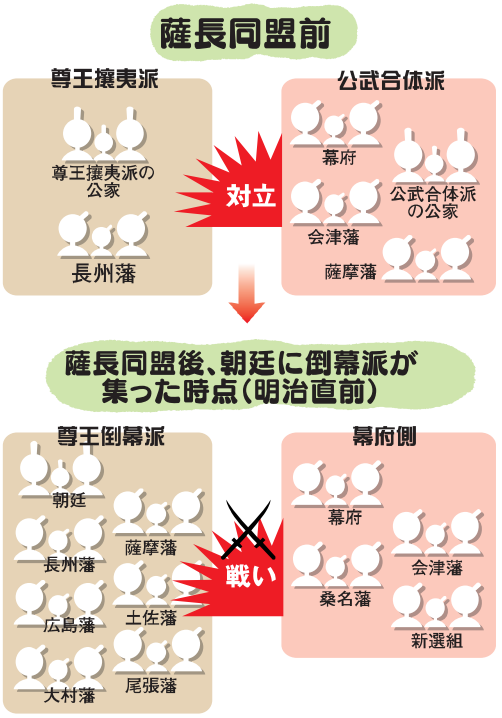
幕府と朝廷

江戸時代は幕府が日本を治め、朝廷は形式的に幕府の上にあるだけでしたが、幕府の政治が混乱したことと、天皇を敬うという尊王の考え方が合わさって、幕末には天皇を中心とした政治を目指す動きが大きくなります。

薩長同盟

幕府を倒すためには、大きな藩が協力する必要があり、特に仲が悪かった薩摩藩と長州藩が力を合わせることが大事でした。

朝廷・幕府を取り巻く対立関係



幕末・維新の英雄たち

大久保利通（薩摩藩）
西郷隆盛とともに薩摩藩及び新政府側で中心的な役割を果たす。明治新政府でも重要な役職についた。楠本正隆の政治能力を高く評価した。
（写真提供：鹿児島県歴史資料センター黎明館）

西郷隆盛（薩摩藩）
薩摩藩の中心人物。渡辺昇と会談を重ね、薩摩と大村の連携を深める。新政府軍では軍を率い、渡辺清らと進軍し、幕府を倒す。明治に西南戦争を起こし戦死。
（写真提供：鹿児島県歴史資料センター黎明館）

桂小五郎（木戸孝允 長州藩）
長州藩の中心人物。江戸の剣術道場（神道無念流）練兵館では渡辺昇の兄弟子であった。昇に薩摩との同盟を説得される。明治新政府で重要な役職につく。（写真提供：山口県立山口博物館）

高杉晋作（長州藩）
長州藩の上級武士。幕府に味方する藩士を排除し、長州藩を倒幕へと進ませる。渡辺昇の薩長同盟の説得にはまだ早いと反論するが、倒幕の意見は同じだった。明治直前に病死。（写真提供：萩博物館）

坂本龍馬（土佐脱藩浪士）
土佐藩を出た後、長崎で亀山社中を作り武器の輸入などを行う。薩長同盟をまとめるが、長州藩の説得には、桂小五郎と親しい渡辺昇に頼んだ。京都で暗殺される。
（写真提供：坂本龍馬記念館）

三十七士が語る大村藩の動き

●文久3年(1863)

勤王三十七士同盟の結成

我々、勤王の大村藩士がひそかに集まり、新しい日本をつくるため相談し、他の藩との同盟を探っていった。これが大村藩勤王三十七士と呼ばれる仲間であり、あとで藩の中心となったのだ。

渡辺　清

●慶応3年(1867)正月

大村騒動(松林飯山暗殺事件)

慶応3年(1867)の正月、お城からの帰りに私と針尾九左衛門様が突然襲われました。私は残念ながら命を落とし、新しい日本を見ることはできませんでした。

松林飯山

一縄の策

大村藩は、小さな藩なので、新しい日本をつくる大きな計画には、各藩が力を合わせる必要がある。これを我々は「一縄の策」と呼んだ。この策を成功させるため、我々はいろいろな藩を周り、話を聞き、説得するなどがんばっていったのだ。

渡辺　昇

●慶応3年(1867)　**倒幕へ決定**

同士の松林飯山の暗殺は、我々三十七士にとって大事件でした。必死に犯人捜しを行い、多くの者を捕まえました。犯人が幕府に味方する者たちだったこともあり、大村藩は幕府を倒す意見が強くなり、倒幕に決まったのです。

楠本正隆

大村藩はどうして倒幕しようと思ったのかな？

外国の力をよく知っていた大村藩の人たちは、いろいろな藩の人たちと話を重ね、外国に負けない新しい国づくりを行う必要があると考えました。そこで、薩摩藩や長州藩と力を合わせて幕府を倒す行動を起こしていきました。

大村藩士 西へ東へ大活躍

大村藩士の交渉の足跡

大村

慶応2年(1866)
昇:桂の頼みで長州藩士3人をかくまう。
慶応3年(1867)
清:中岡慎太郎と会談
大村藩主の京都行きを要請される。

福岡・太宰府

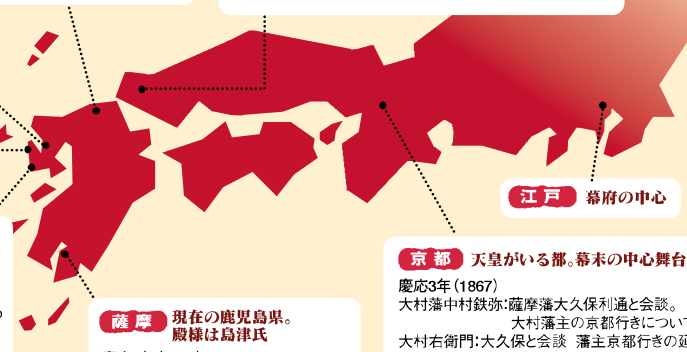
元治元年(1864)
稲田中衛・江頭隼之助:福岡藩と協議
(同盟成立。後破棄)
昇:西郷隆盛と会談　大村藩主の江戸参勤中止を説得される。
慶応元年(1865)～
昇:太宰府へ五卿に会いに行く。西郷・桂もしばしば訪れる。

長州　現在の山口県。殿様は毛利氏

元治元年(1864)
昇:桂小五郎と会談 長州と大村の同盟について。
慶応元年(1865)
昇:長岡:伊藤俊輔と長崎より長州へ行く。
昇:長岡:高杉晋作と会談　薩長同盟の必要を説く高杉は時期尚早と反論。
昇:長岡:桂と会談　薩長同盟の必要を説く。
この後、数回、桂・高杉へ薩摩との同盟の説得を行う。
慶応2年(1866)
昇:桂と会談。
昇:長州藩主世子毛利元徳に謁見 刀等を賜う。

大村領松島

慶応2年(1866)
江頭隼之助
昇:桂小五郎と会談。



江戸　幕府の中心

長崎　外国への窓口であり、多くの人が集まる町。

慶応元年(1865)
昇:坂本龍馬と会談 薩長同盟について。
昇:長州藩伊藤俊輔と会談　薩長同盟について。
慶応2年(1866)
昇:長崎入りしていた桂を長崎奉行から逃がす。
慶応3年(1867)
昇:坂本龍馬と協議　大村藩兵の京都行きに際し、土佐夕顔丸への乗船について。

薩摩　現在の鹿児島県。殿様は島津氏

慶応2年(1866)
昇:西郷隆盛と会談。
昇:薩摩藩家老小松帯刀に面会
大村藩主の親書を渡す。
昇:西郷と会談　薩摩藩と大村藩の連携を確認。

京都　天皇がいる都。幕末の中心舞台。

慶応3年(1867)
大村藩中村鉄弥:薩摩藩大久保利通と会談。
大村藩主の京都行きについて。
大村右衛門:大久保と会談　藩主京都行きの延期と大村藩兵の京都行きを伝える。
清:新精隊を率い京都に到着。大久保・西郷と面会。
昇:大久保・西郷と会談 大村藩兵を薩摩藩邸に入れることに。
昇:新選組に襲われる
清:薩摩藩国父島津久光に会う。
清:兵を率い、薩摩藩兵と御所の門の警備につく。

こんなにたくさん話し合いをしていたんだ！

【略称】
清：大村藩　渡辺清
昇：大村藩　渡辺昇
長岡：大村藩 長岡治三郎

幕府を倒す戦い　戊辰戦争

慶応4年（1868）1月、京都の鳥羽と伏見で、朝廷軍と幕府軍の戦いが始まりました。これが翌年の5月の函館五稜郭（北海道函館市）の戦いまで続いた戊辰戦争です。大村藩はこの時、朝廷（倒幕派）に付き、出陣しました。京都から江戸、会津に向かった東征軍と、長崎から秋田へ向かった北伐軍が出陣しています。

大村藩隊旗

大村藩兵の活躍

秋田の戦い

秋田藩が朝廷側についたので、周囲の幕府側の藩から攻撃を受けており、朝廷は秋田藩に応援を送ることになりました。大村藩では、326名が長崎から船で秋田へ向かいます。角館に着いた大村兵は、庄内藩や仙台藩の兵の攻撃を受けますが、官軍は、大村兵を中心にこれを防ぎました。刈和野の戦いでは官軍はとても苦戦し、多くの戦死者を出しましたが、角館を守り通すことができました。

❹会津の戦い

東北地方の会津・米沢・仙台藩などは、奥羽越列藩同盟を結び、官軍に対抗しました。官軍は、東北地方へ軍を進め、列藩同盟諸藩を攻撃します。会津藩は城にこもって抵抗しましたが、1ヵ月後降伏し開城しました。大村兵は、東征軍（1番隊126名、2番隊111名）が参加していました。飯盛山で切腹した少年兵白虎隊は有名です。

❸江戸での戦い

官軍は江戸城を総攻撃する計画でしたが、幕府が城を明け渡すことで終わり、270年続いた江戸幕府は終わりました。

しかし、江戸城が官軍に引き渡されても、幕府軍の一部には抵抗するものもおり、上野の寛永寺に立てこもる彰義隊との戦いでは、大村兵も多くの負傷者を出しました。この戦いで幕府軍は敗れ、関東各地や会津、函館へと逃げていきました。

❷東海道を進む

大村兵は、官軍の先頭になり、桑名城を受け取り、箱根の関所を奪い取りました。

❶京都：鳥羽・伏見の戦い

大村藩は、戦いが始まる前から京都に兵を出しており、鳥羽伏見の戦いが始まると、大津に兵を出し、東から攻めてくる幕府軍にそなえました。鳥羽伏見の戦いに勝った朝廷側の軍は官軍と呼ばれ、幕府のある江戸をめざして行くことになりました。

戊辰戦争出兵者の写真
北伐軍を率いた家老大村右衛門とその従者

新精隊旗

新精隊

新精隊とは大村藩が倒幕のために作った軍隊。慶応3年（1867）に渡辺清が率いて京都へ出発する時には新精組といい15名でしたが、その後、60名程度に大きくなりました。

西郷隆盛

勝海舟

江戸城開城の会談

官軍は、江戸城を攻撃する予定でしたが、江戸の町が壊れてしまうため、官軍の西郷隆盛と幕府の勝海舟が話し合いをして、幕府軍が城を明け渡すことに決まりました。この大事な話し合いに大村藩の渡辺清も立ち会いました。

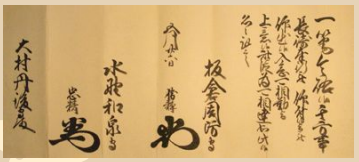
最後の藩主 大村純熙（1830〜1882）

第10代大村藩主　大村純昌の8男として玖島城内で誕生。兄の後を継ぎ第12代藩主となりました。蘭学（西洋の学問）に深い興味を持って、西洋式の軍隊を取り入れるなど、藩の改革を行いました。幕府から突然、異例の長崎奉行・長崎惣奉行に任命されましたが、翌年辞め、藩を勤王倒幕へと導きました。戊辰戦争では新政府軍として活躍し、多くのほうびをもらっています。

丹後守任命状

陣羽織

大村純熙が使った陣羽織。大村家の家紋「五木瓜」が入る。

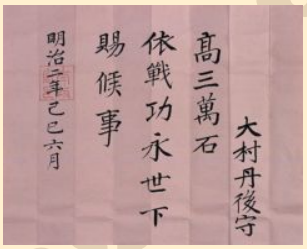


長崎奉行任命状

倒幕のほうび

賞典禄

明治2年、明治政府は戊辰戦争で手柄を立てた藩、藩士、諸隊にほうびを出しました。石高で与えられ、最高は薩摩藩と長州藩の10万石で、大村藩は、4番目に高い3万石のほうびをもらいました。これは、元々の石高よりも多いほうびでした。



藩　名	賞典禄高	藩の石高
薩摩藩	10万石	73万石
長州藩	10万石	36万石
土佐藩	7万石	24万石
大村藩	**3万石**	**2万7千石**
鳥取藩	3万石	32万石
大垣藩	3万石	10万石
佐土原藩	3万石	2万7千石
佐賀藩	2万石	35万石

角館と浜田謹吾

浜田謹吾は、北伐軍二番隊の鼓手として参戦していました。鼓手は、兵隊が進軍する時に列が乱れないようにするためや、兵士を勇気づけるために太鼓をたたく人のことです。しかし、秋田の角館の郊外　刈羽野での激しい戦いで、大村兵は7名の戦死者を出しますが、謹吾もその一人でした。大村兵や角館の人たちは、謹吾の死を悲しみ、手厚く葬りました。その時、謹吾の衣服の襟に縫いつけてあった

「二葉より手くれ水くれ待つ花の君がみために咲けやこの時」

という謹吾の母の歌が見つかり、この歌に心を強く打たれた角館の人たちは、謹吾の母の気持ちを思い、涙を流しました。今でも角館では、大村兵や謹吾少年のことが語り継がれています。

そうした縁で、昭和54年（1979）、大村市と角館町（現在は仙北市）は姉妹都市となりました。謹吾少年の記念碑が大村公園と角館の神明社に建てられています。

大村公園の謹吾少年像

藩士データファイル

渡辺　清

（1835～1904）

天保6年（1835）生まれ
33才（明治維新前年時）
40石
弟に昇　娘に石井筆子
職：新精隊長　東征軍参謀
福岡県令　福島県知事
貴族院議員　男爵

Kiyoshi Watanabe

- 大村藩勤王三十七士の中心的な一人。幕末には軍事の専門家。
- 幕府を倒す戊辰戦争で、新精隊を率いて京都へ行き、新政府軍の参謀となりました。
- 新政府軍のリーダー西郷隆盛から信用され、「江戸城明け渡しの会議」で西郷と勝海舟との会談に同席しました。
- 大村藩では藩主以外で一人だけ、政府から直接、ほうびをもらいました。
- 明治政府から、戊辰戦争で荒れた東北地方を立て直すことを命令され、後に福島県知事となりました。
- 40歳の時には、福岡県知事になって、秋月での士族の反乱の鎮圧に力をつくしました。

石井筆子

清の娘。女性や知的障害者の教育・福祉に努力しました。

渡辺　昇（のぼり）

（1838～1913）

天保9年（1838）生まれ
30才（明治維新前年時）
40石　兄に清
職：馬廻　治振軒剣術取立
大阪府知事
会計検査院長　子爵

Nobori Watanabe

- 大村藩勤王三十七士の中で一番の行動派。剣の達人。
- 剣を江戸の三大道場として有名な練兵館で、斎藤弥九郎のもとで修行しました。練兵館（れんぺいかん）で桂小五郎（かつらこごろう）（後の木戸孝允（きどたかよし））などたくさんの長州の武士たちと友達になりました。
- 桂の後、道場の塾頭（キャプテン）になりました。同じ頃、新選組の局長となる近藤勇と知り合いました。
- 各藩が一つにまとまり、助け合って行動しようと「一縄（いっじょう）の策」を計画。大村では殿様 大村純熙（すみひろ）のもと、兄の清や長岡治三郎（長岡半太郎の父）など仲間といっしょに天皇を敬う「三十七士同盟」というグループをつくって、他の藩の武士とも連絡を取り合いました
- 坂本龍馬から薩長同盟は絶対、必要と言われ、そのころ薩摩藩と仲の悪かった長州藩に説明してほしいと頼まれ、山口へ行き、桂や高杉を説得。薩長同盟の成功のため、大きな役割をしました。
- 明治になって、大阪府知事、会計検査院長などを務め、剣の達人だったので、武道の会　大日本武徳会の役員となって、今につながる剣道を全国に広めました。

松林飯山（はんざん）

（1839～1867）

天保10年（1839）生まれ　29才（明治維新前年時）
60石　職：五教館教授

- 本名、廉之助（れんのすけ）。医者　松林杏哲（きょうてつ）の子供として今の福岡県で生まれ、9歳の時、母のふるさと、大村藩領（西海市崎戸町）に引っ越しました。
- 3歳で漢字を書き、6・7歳でむずかしい昔の中国の本を読んで、天才といわれました。
- 殿様の命令で江戸の昌平坂学問所（しょうへいざかがくもんじょ）（今の東京大学）で勉強しました。明治になって三菱会社をつくった高知県の岩崎弥太郎とは、いっしょに安積艮斎（あさかごんさい）先生に勉強を習った友達でした。
- 宮城県の岡千仞（おかせんじん）、愛知県の松本奎堂（まつもとけいどう）、佐賀県鹿島の原忠順（はらただのぶ）の3人の友達と大坂で塾（雙松岡塾（そうしょうこうじゅく））をつくりましたが、大村に帰って、五教館の先生となり、4年後には校長先生となりました。
- 大村に勤王思想を広め、渡辺昇など仲間と尊王倒幕運動を進め、大村藩勤王三十七士の中で一番の勉強家でした。慶応3年（1867）正月に自宅前で暗殺されました。

Hanzan Matsubayashi

楠本正隆

（1838～1902）

晩年の正隆

天保9年（1838）生まれ　60石
30才（明治維新前年時）
職：馬廻　長崎府判事　新潟県令
東京府知事　衆議院議長　男爵

- 大村藩勤王三十七士の中の中堅的な一人。渡辺昇と長与専斎は同級生。
- 仲間といっしょに勤王倒幕運動に参加。大村を代表して福岡・島原・対馬に出かけて、武士と意見を交換しました。
- 明治になり、長崎府判事となり、長州の井上馨（後の外務大臣）と知り合い、やがて外務大丞（局長・部長クラス）となりました。
- 薩摩の大久保利通に政治能力を認められ、新潟県知事となり、今までうまく行かなかった信濃川の工事を成功させるなど新潟の政治にがんばり、新潟県民に喜ばれました。
- その後、東京府知事や衆議院議長（第3～第5代）になりました。
- 特に公園づくりを進め、自分がつくった新潟市の白山公園には今、正隆の銅像が建てられています。

正隆の銅像

Masataka Kusumoto

長与専斎（せんさい）

（1838～1902）

天保9年（1838）生まれ
21石
長崎医学校学頭　衛生局長

Sensai Nagayo

- 大村藩の医者の家に生まれ、伝染病の天然痘を治すことで大活躍したおじいさんの長与俊達に育てられました。
- 五教館で勉強した後、大坂の緒方洪庵（おがたこうあん）の適塾（てきじゅく）に通い、蘭学（らんがく）を勉強しました。塾には今1万円札の顔になっている福沢諭吉もいました。長崎の出島に来たオランダ商館医　ポンペの医学伝習所に入り、新しい西洋医学を習い、明治になって長崎医学校ができると、校長先生となりました。
- アメリカやヨーロッパの国々の医療制度を見たりして、帰国後、日本の医療・保健の制度を作っていきました。
- 病気にならないためには、きれいな環境が大事という予防の考え方を取り入れ、日本で初めて「衛生（えいせい）」という言葉を作りました。

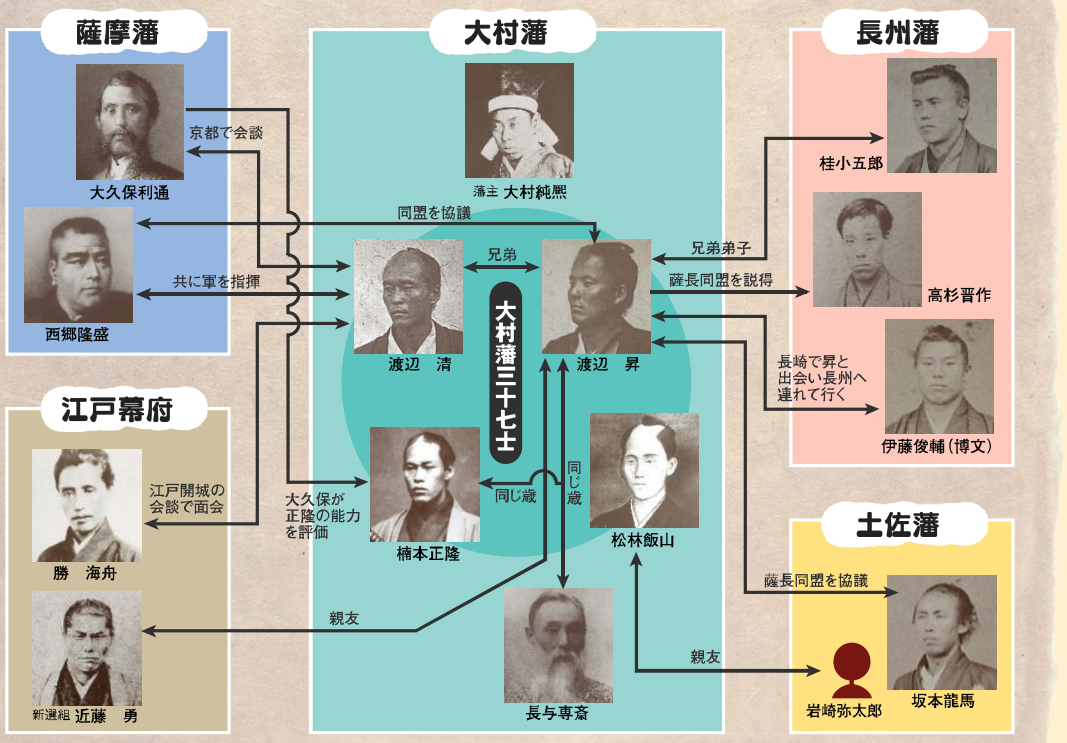
大村藩勤王三十七士一覧

年齢は大村騒動が起こった慶応3年（1867）の時点

浅田千葉之助	413石余。城代浅田大学の子。
針尾九左衛門	406石余。44歳。家老・左脇備侍大将。慶応3年正月に刺客に襲われ大けがをする。
原　三嘉喜	305石余。28歳。
稲田　東馬	250石余。別名、又左衛門。34歳。家老。明治後、権大参事、第十一大区区長。
大村太左衛門	198石余。46歳。側用人兼質素方用掛。家老。
松田　要三郎	159石余。34歳。
山川宗右衛門	156石余。37歳。
大村　歓十郎	153石余。のち松浦熙。格外の家老。
福田　弘人	133石余。40歳。
土屋善右衛門	110石余。42歳。旗本長柄奉行・脇備者頭・明治元年東征軍総督として出陣。
野沢　門衛	101石余。
根岸　主馬	100石余。40歳。
加藤　勇	80石。
中村　平八	80石。41歳。
沢井六郎太夫	61石余。39歳。
小佐々健三郎	61石余。
松林　飯山	60石。詳しくは左に
楠本　正隆	60石。30歳。詳しくは左に
梅沢　武平	60石。29歳。
中尾　静摩	50石。俊輔。46歳。元締役
常井　邦衛	50石。36歳。
戸田　圭二郎	46石。29歳。
渡辺　清	40石。33歳。詳しくは左に
渡辺　昇	40石。30歳。詳しくは左に
長岡　治三郎	40石。29歳。江戸・京都に遊学。京都で探索方を兼ねる。長岡半太郎の父
長岡　新次郎	40石。34歳。
十九　貞衛	40石。
山川　清助	33石。
村山与右衛門	30石。
朝長　熊平	30石。
柴江　運八郎	30石。34歳。渡辺昇と並び剣の達人。
藤田　小八郎	30石。
久松　源五郎	25石。
北野　道春	20石。46歳。医師。藩主の療養掛を務める。
浜田　弥兵衛	13石余。42歳。浜田謹吾の父。
中村　鉄弥	知行高未詳。公知。同盟成立当初から加盟。
根岸（喜多）陳平	知行高未詳。

※太字はこのパンフレットに登場する人物

＊幕末人物相関図＊



明治以後の人々

明治の藩主一家

藩主大村純熙と奥方、4人の娘が写る。明治になって江戸へ向かう前に長崎の藩邸で写したものと思われます。

わしらの苦労を分かってもらえたかな？

晩年の大村藩士たち

左から岩永前親、渡辺昇、長岡重弘、大村武純、稲田又左衛門、鈴田洗七。明治41年撮影。

史跡に行ってみよう！

●玖島城跡

大村市玖島1丁目
大村藩主の居城で、現在は大村神社、大村公園となっています。この城で藩主と家臣が集まって、大村藩の倒幕の方針を決しました。

●五小路武家屋敷街

大村市玖島1・2丁目 片町 久原
玖島城下にある武家屋敷街で、本小路・上小路・小姓小路・草場小路・外浦小路の五本の通りとその他の通りがありました。多くの藩士が住み、倒幕の密談や大村騒動などの舞台ともなりました。

●大村純熙公銅像

大村市玖島1丁目
大村神社境内に建つ純熙公の銅像です。

●五教館御成門

大村市玖島1丁目
大村藩の学校の門です。大村藩は九州で最も早く藩校を設置した藩で、教育を重視していました。幕末に活躍する藩士もここで学びました。

●大村護国神社

大村市玖島2丁目
円融寺の跡地で、戊辰戦争以降の戦死者の霊が祀られ、境内正面には大村藩追遠碑や戊辰戦争戦死者の碑、飯山の碑などがあります。

●三十七士の碑

大村市玖島2丁目（護国神社内）
護国神社境内東側に建つ大村藩三十七士の碑で、亡くなった順に並んでいます。

●松林飯山の墓

大村市須田ノ木町
慶応3年に暗殺に倒れた松林飯山の墓で、巨大な自然石の墓石が建っています。

●旧楠本正隆屋敷

大村市玖島2丁目
明治3年に建てられた正隆の屋敷で、武家屋敷の様子が良く残っています。
（一般公開／大人200円 小中学生100円）

[年表]幕末の主な出来事

西暦	元号	出来事
1808	文化5	フェートン号事件
1853	嘉永6	浦賀にペリー来航
1854	安政元	再びペリー来航、開国
1855	安政2	幕府が長崎海軍伝習所を開く
1858	安政5	安政の大獄はじまる
1863	文久3	大村純熙、長崎惣奉行となる（翌年辞める）
		薩英戦争起こる
		八月十八日の政変　長州藩が京都から追放される
		大村藩勤王三十七士結成
1864	元治元	大村藩、長州藩と同盟を結ぶ
		禁門の変 長州藩が京都に攻め上るが敗れる
		第1次長州征伐
		下関戦争（外国船が下関を砲撃する）
1865	慶応元	高杉晋作ら長州藩の実権を握る
		坂本龍馬、長崎に亀山社中をつくる
1865	慶応元	渡辺昇、長州藩の桂小五郎、高杉晋作と会談
1866	慶応2	薩長同盟
		第2次長州征伐
1867	慶応3	松林飯山暗殺 大村騒動はじまる
		大村藩兵京都へ出発
		討幕の密勅が下る
		大政奉還　幕府、政治を朝廷に戻す
		王政復古の大号令
1868	明治元	鳥羽伏見の戦い　戊辰戦争はじまる
		江戸城開城の会談
		会津攻め
1869	明治2	戊辰戦争終わる
		倒幕のほうびとして賞典禄をもらう
		版籍奉還
1871	明治4	廃藩置県　藩がなくなる

【発行】大村市立史料館 平成20年度　〒856-0831　長崎県大村市東本町481　TEL0957-53-1979
写真提供／大村家・鹿児島県歴史資料センター黎明館・高知県立坂本龍馬記念館・長崎歴史文化博物館・萩博物館・山口県立山口博物館
【印刷】（有）康真堂印刷